



れんげそう

令和8年1月31日
福生第五小学校
学校通信第582号

豊かな心を育てる

校長 泉田 巧人

早いもので、令和8年が始まり1か月が過ぎました。1月には、縄跳旬間や東京都の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」等がありました。縄跳旬間では、様々な技に挑戦し、引っかかっても何度も何度も粘り強く練習する子どもの姿がありました。一年生が、「校長先生見て。」と、できるようになった技をうれしそうに見せてくれている時の笑顔はとても輝いていました。普段の生活において、苦手なものは、避けたり後回しにしたりしてしまうものですが、失敗しても何度も挑戦することで、強い心が育っていくのだと思います。



笑顔と学びの体験活動プロジェクト
(一般社団法人 太鼓と芝居のたまっ子座)

1月29日(木)の3、4時間目には、東京都の企画の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」を行いました。福生市を拠点に活動している「一般社団法人 太鼓と芝居のたまっ子座」の方々に、演目「どうぶつ忍者太鼓」太鼓等の楽器と演劇が融合したとても楽しい舞台をみせていただきました。子どもたちはとても楽しそうに笑顔で演技を観ていました。質の高い本物に出会うことで子どもたちの心が揺れ動き、豊かな情操等の感じる心が育っていくものだと感じました。教育活動において、様々な体験を通して、知、徳、体を育てていきたいと改めて考えるいい機会となりました。

さて、2月は東京都の全ての学校で行われる、「ふれあい(いじめ防止強化)月間」です。学校だよりのコラムでも「いじめ」について幾度となく取り上げてきましたが、本校においても最重要課題として捉えている一つです。福生市教育委員会でも「いじめ防止サミット」を行うなど、全ての学校でいじめの根絶に向けた取組を行っています。そして、本校も教職員が一丸となって取り組んでいます。しかし、「いじめ」は様々な形で起こり、なくなりません。

最近、SNSで、暴力等を振るういじめの動画が出回っているのをみなさんも御存じだと思います。そして、その暴力を振るっている人を特定し、顔写真や名前、住所、誹謗中傷等をSNS上に載せる人がいて、それを他のユーザーが拡散する。皆さんは、このことはどちらが「いじめ」だと思いますか。暴力を振るうのは間違いなく悪いことで「いじめ」です。では、悪いことをやった人の個人情報や誹謗中傷をSNSに載せるのは「いじめ」ではないのでしょうか。個人情報や誹謗中傷等をSNSに載せることは間違いなく悪いことで「いじめ」なのです。ここに「いじめ」がなくならない一つの心理が働いています。正義へのすり替えが行われ、歪んだ正義感が「いじめ」を正当化させています。この場合、暴力を振るう人が悪く罰を受けて当然という思いから、自分の行動が悪いという自覚がない人もいます。また、「その人がいじめをしなければ、私はその人の個人情報や誹謗中傷等をSNSに載せることはしなかった。」と思う人もいます。

本校でも友達に対し、嫌な言い方や威圧的な言い方で注意したり、集団で集中的に注意したりする子どもがいます。教員がそれを指摘すると「正しいことを言って注意してあげているのに何が悪いの。なぜ私が注意されなきゃいけないの。」といった光景が見られます。本当にいじめをなくすには、善悪を見極め、悪いことは悪いと判断し、絶対しないという正しい心を育てることが必要だと考えます。

「いじめ」を絶対に許さないという信念の下、本校のテーマである「やさしい学校～思いやり大作戦～」を進め、何事にも優しい心、思いやりのある心を育てていきたいと思っています。豊かな心をもつ子どもたちを育てていくため、教職員一同尽力していきます。保護者の皆様、地域の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。